

近代の文化遺産の保存修復に関する研究 (①修06-08-3/5)

目 的

近代の文化遺産は、従来の文化財とは規模、材質など大きく違い、その保存方法や使用材料なども同様に違いがある。本研究では、その様な近代の文化遺産の保存修復を行う上で必要とされる材料と技術について調査研究を行う。また、保存修復だけでなく、活用方法についても調査研究を行い、保存の方法や修復の進め方などにおいてよりよい状態で保存できるようにすることを目指している。

概 要

今年度は近代化遺産の利活用に関する手法や問題点をテーマとして研究を行った。保存されている建造物の中でも、鉄構造物は、常に風雨にさらされ非常に劣悪な環境の中での保存を余儀なくされている。今年度は、国内において重要文化財に指定されている鉄構造物（三井万田坑竪坑櫓、富岡製糸場内の鉄製水槽）の保存と修復・活用に実際に携わっておられる方を、また、鉄を腐食から守る為に使用される塗料メーカーの方もお招きし、それぞれの立場から鉄製構造物の保存と修復あるいは活用に関する研究会を実施した。さらに、ドイツ技術博物館の鉄道専門学芸員と、やはり鉄製で屋外保存されている文化財の保存と修復に関して共同で調査し、話し合いを持った。

屋外展示されている鉄道車両や航空機などの金属を主体とする文化財の防錆対策のために、各種サンプルを作成し小樽市総合博物館、船の科学館、かかみがはら航空宇宙科学博物館、大樹町多目的航空公園、海上自衛隊鹿屋航空基地での曝露実験も継続して実施している。これらの地点では、試料の受けた紫外線量をはじめ、温度、湿度などの測定も行い、これらの塗装仕様と劣化速度の相関についても検討している。屋外展示航空機の環境測定も継続している。

- ・調査施設：所沢航空発祥記念館、大樹町多目的航空公園、海上自衛隊鹿屋航空基地、知覧特攻記念館、万世特攻平和祈念館、富岡製糸場、原爆ドーム、鉄道博物館、日本橋、小樽市総合博物館、ドイツ技術博物館、三井万田坑竪坑櫓、田川市伊田竪坑櫓、八幡製鉄所東田第1高炉

研究会の開催 1件

- ・第22回近代の文化遺産の保存修復に関する研究会「鉄構造物の保存と修復について」 東京文化財研究所 08.11.7

学会、研究会等での発表 2件

- ・中山俊介「鉄構造物の保存と活用」 第22回研究会「鉄構造物の保存と修復について」 東京文化財研究所 08.11.7
- ・中山俊介「近代化遺産の保存と活用」 シンポジウム「日本の技術史をみる眼」第27回 産業技術記念館 09.2.28

報告書の刊行 3件

- ・『航空機遺産の保存と活用』 東京文化財研究所 57p 09.3
- ・『Utilization of Railway Cultural Properties』 東京文化財研究所 95p 09.3
- ・『Issues Surrounding the Conservation of Modern Heritage』 東京文化財研究所 44p 09.3

研究組織

○川野邊渉、中山俊介、森井順之、中村明子（以上、保存修復科学センター）、横山晋太郎、長島宏行（以上、客員研究員）